

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 21 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320074

研究課題名(和文) 中東およびヨーロッパにおける驚異譚の比較文学的研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Mirabilia in the Middle East and Europe

研究代表者

山中 由里子 (Yamanaka, Yuriko)

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授

研究者番号：20251390

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：中世ヨーロッパでは、辺境・異界・太古の怪異な事物、生き物、あるいは現象はラテン語でミラビリアと呼ばれた。一方、中世イスラーム世界においては、未知の世界の摩訶不思議は、アラビア語・ペルシア語でアジャーイブと呼ばれ、旅行記や博物誌などに記録された。いずれも「驚異、驚異的なもの」を意味するミラビリアとアジャーイブは、似た語源を持つだけでなく、内容にも類似する点が多い。本研究では、古代世界から継承された自然科学・地理学・博物学の知識、ユーラシアに広く流布した物語群、一神教的世界観といった、双方が共有する基盤を明らかにし、複雑に絡み合うヨーロッパと中東の精神史を相対的かつ大局的に捉えた。

研究成果の概要(英文)：European marvels, or mirabilia in latin, have already been studied quite extensively, notably by Jaques Le Goff, and more recently by Daston and Park. Whereas its Middle Eastern equivalent, ajaib (also meaning "the wondrous", from the root of the Arabic verb, ajiba = to wonder), has yet to be examined in a comprehensive manner, although scholars have dealt with specific works. Not only are mirabilia and ajaib based on the same notion of "wonder", they often draw from traditions going back to common sources (Greek scientific writings, the Alexander Romance), and share a monotheistic view of the world. Thus, this interdisciplinary study endeavored to compare the conceptual frameworks of medieval marvels in Europe and the Middle East, and to reveal their entangled intellectual history, through the examination of texts and visual representation related to the wonders of the world. The results will be published as a collective volume from Nagoya University Press in 2015.

研究分野：比較文学

キーワード：驚異譚 比較文学 博物誌 異境 文化交流史 想像界 ヨーロッパ 中東

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ文学および中東文学のそれぞれの分野においては、異境の表象に関する研究は国内外において行われてきたが、従来の研究の結果は、「西洋から見た東洋像」、あるいは「中世ムスリムの世界観」の抽出に留まっていた。中東イスラーム世界とヨーロッパにおける驚異譚の、古代・中世・近世にかけての大きな展開を俯瞰しようとした研究はこれまでになく、本研究は、その間隙を埋めるものである。

2. 研究の目的

本研究が対象とする「驚異譚」とは、ラテン語で *mirabilia*、アラビア語・ペルシア語で *ajā'ib* と呼ばれる、辺境・異界・太古の怪異な事物や生き物についての言説である。未知の世界の摩訶不思議を語るこのようなエピソードは、東西の歴史書、博物誌・地誌、物語、旅行記・見聞記などに登場するが、これらの多くはギリシア自然科学、「アレクサンドロス物語」、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の黙示録的説話などを通して、古代世界から中世・近世の中東およびヨーロッパに継承され、様々な文化圏で共有されてきた。本研究は複数の異分野の専門家によって構成されており、これらが協力して各時代・地域の驚異譚を比較し、伝播の過程、世界観の相違、文化交流のダイナミズムを解明してきた。

3. 研究の方法

学際的な共同研究メンバーによる発表と議論を通して、まずは様々な時代・地域における「驚異」「驚異譚」の定義について互いに理解を深め、研究対象とするべき作品を絞り込んだ。また、驚異譚の中でも中東とヨーロッパに特に広く分布し、古代・中世・近世を通じて継承されていった物語・逸話・モチーフが何であったかを検証した。さらに驚異譚の語りの形体(書簡体、見聞記、博物誌等)についても比較分析した。

分担者各自は、担当テーマに関連した史料の収集と解析を進め、必要に応じて海外における文献、美術品、建築物などの現地調査や、海外の研究協力者との学術交流を行った。

4. 研究成果

本研究では、「驚異」がもっとも生き生きと語られ、描かれた中世という時代を中心に据えて、その対象である物や現象が何であり、そしてどのように表象されてきたかを、言説だけでなく、視覚的な表象との関連も含めて考察してきた。研究期間中に行ってきた計 10 回の共同研究会を総括し、成果を論文集『< 驚異 > の文化史 中東とヨーロッパを中心に』として刊行する。研究協力者までも含めて総勢 21 名の執筆者、28 章からなる本書は、国立民族学博物館外部出版助成金を得て、名古屋大学出版会から 2015 年内の刊行される

ことが決定している。

論文集においては、複雑に絡み合うヨーロッパと中東の精神史の、古代から中世、そして中世から近世にかけての展開を、相対的・大局的に捉え、かつ具体的なテキストや美術品に即して正確に提示することを目指した。各章は、ギリシア語、ラテン語、ヨーロッパ諸言語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語などの多岐にわたる一次資料や美術品の緻密な分析に基づいた実証研究であり、それらを比較対照することにより、驚異の在り方について包括的な見通しを得ることができる下記のような構成となっている。

序章 驚異考 (山中由里子)

第 I 部 驚異とは何か

- 1 ヨーロッパ中世における驚異 (池上俊一)
- 2 イスラーム世界における奇跡の理論 (二宮文子)

第 II 部 驚異の編纂と視覚化

- 1 驚異を目にした人々 中東イスラーム世界の旅行記と驚異譚 (亀谷学)
- 2 ペルシア語百科全書成立の十二世紀 (守川知子)
- 3 ヨーロッパ中世の東方旅行記 (大沼由布)
- 4 ヨーロッパ中世の奇譚集 (黒川正剛)
- 5 コプト聖人伝に見られる驚異な奇跡譚 (辻明日香)
- 6 イスラーム世界の写本絵画と驚異 (林則仁)
- 7 イスラーム美術に表された驚異の動物 (小林一枝)
- 8 ヨーロッパ中世写本の挿絵における驚異 (松田隆美)
- 9 中世キリスト教建築装飾に見る驚異 (金沢百枝)

第 III 部 驚異のトポス

- 1 ヨーロッパ中世の驚異譚における空間(トポス)と時間(クロノス) (池上俊一)
- 2 東方の驚異 ヨーロッパにおける巨大蟻の記述の変遷 (大沼由布)
- 3 動く島の秘密 巨魚伝説の東西伝播 (杉田英明)
- 4 想像の地理と周縁の民族 女人族伝承の東西伝播 (山中由里子)
- 5 驚異としての北方 イブン・ファドラーンの記録を中心に (家島彦一)
- 6 驚異としてのアフリカ大陸 中世アラビア語地理文献に見えるザンジュ地方 (鈴木英明)
- 7 ピラミッドという驚異 (亀谷学)
- 8 ペルセポリスとイスラーム世界の「七不思議」 (守川知子)
- 9 ストーンヘンジと驚異の国土 (見市雅俊)

10 万里の長城 (武田雅哉)

第IV部 驚異の転生

- 1 ヨーロッパ近世の驚異 怪物と魔女 (黒川正剛)
- 2 驚異の部屋 ヴンダーカマーの時代 (小宮正安)
- 3 17世紀イギリスの博物館と自然誌 (見市雅俊)
- 4 「驚異の地インド」の内在化 (小倉智史)
- 5 イスタンブールの民衆と奇物 驚異から日常の中の異常へ (宮下遼)
- 6 パレスチナとヨルダンにおける奇跡譚の今 (菅瀬晶子)

あとがき (山中由里子)

比較年表

一次資料・参考文献

全体的に地域、分野の均衡に配慮しており、通読することによって、ヨーロッパと中東イスラーム世界を比較対照し、より巨視的な歴史的展望が見えてくるという構成になっている。「驚異の時代」の潮合を俯瞰すると、次のような展望と今後の課題が見えてくる。

「イスラーム黄金期」とも呼ばれるアッバース朝時代には、インド、中国、東アフリカ、北ヨーロッパをつなぐネットワークが形成され、異国の珍しい物事に関する情報がバグダードに集められた。九世紀後半から地理書や旅行記が出始め、そこにはギリシア・ローマ起源の知識だけでなく、旅人や船乗りが実際に体験し目撃したことの記録も含まれた。

一〇世紀にアッバース朝の中央集権が弱体化し、学問の中心が分散すると、集積された情報は、イスラーム的な宇宙論のもとに体系化される。一一世紀頃から一三世紀にかけては、百科全書として編纂され、知識が普及する時代である。

この間、ヨーロッパのキリスト教徒たちは十字軍として東に何度か遠征したが、結局は地中海世界から外には出ていない。中国やインドやアフリカに関する情報は、もっぱら「アレクサンドロスのアリストテレスへの手紙」や「プレスター・ジョンの手紙」などの架空の異国体験に基づいていた。実地の見聞に基づく驚異的伝承の収集はティルベリのゲルワシウスなどが行っているが、ヨーロッパ内の宮廷を拠点として農村や都市で集められたもので、比較的「身近な」驚異であった。

一三世紀後半 - 一四世紀のモンゴル帝国の覇権は「パクス・モンゴリカ」と呼ばれる安定をユーラシアにもたらし、マルコ・ポーロやイブン・バトゥータの大旅行を可能とした。このモンゴルの覇権以前の時代はイスラーム世界の方が移動可能な範囲がはるかに広く、ヨーロッパに比べ異境に関する情報収集力があつた。

しかし、十字軍やイベリア半島のレコンキスタなどはヨーロッパとイスラーム世界の接触を促し、アラビア語訳経由でヨーロッパにアリストテレスやプトレマイオスの自然学をもたらした。一三世紀初頭、イスラーム世界に二世紀近く遅れて、自然界に関する情報を百科全書化するという動きが起こる。

ヨーロッパがそれまで未知であった世界とのコンタクト・ゾーンを拡げたのは一五世紀から一七世紀にかけての「大航海時代」である。ルネサンス、活版印刷の普及、宗教改革などを背景に、驚異の在り方も大きく変わる。宗教改革が生んだ混乱に誘発され、魔女狩りが盛んに行われるようになる。神の業と魔女や悪魔の行いとを区別しようとする態度から悪魔学が発展し、この神と悪魔のせめぎ合いに驚異も絡めとられてゆく。

一方で、それまで直接接触する機会がほとんどなかったアフリカ、アジア、そして新大陸から、情報だけでなく物質としての驚異がヨーロッパに流入し、財力のある蒐集家たちはそれを集め、「驚異の部屋」に陳列するようになる。遠い異国の珍品のみならず、比較的身近なところに存在する怪物や奇形に対する関心も高まり、近代科学の芽生えがそこに見てとれる。

驚異の概念がヨーロッパの近世から近代にかけてどのように変化していったかは、解明がかなり進んでいる。一方、一五世紀以降のイスラーム世界は、ムガル朝、サファヴィー朝、オスマン朝という巨大な帝国が勢威をふるった時代であったが、従来の研究では異境・異人に対する好奇心の欠如が指摘されてきた。この無関心に加え、科学が宗教の道具と化したことがイスラーム世界の「没落」の要因の一つであると言われてきたが、この見方は各地のムスリム王朝下で成し遂げられた学問的功績を正当に評価していない。この時代のイスラーム世界の地理学、自然科学、博物学などの展開について、様々な専門家が共同で考察してゆく必要がある。

中世ヨーロッパとイスラーム世界の哲学・美学・神学的思弁における驚異の概念の相互関係も、今後より詳細に比較検討する必要がある。特に比較の焦点となるのは、奇跡・驚異・自然・神の関係性の解明であろう。

また、2014年10月12日 - 13日には、人間文化研究機構連携研究「驚異と怪異の表象比較研究の試み」(代表：山中由里子)と本課題を連携させた研究フォーラム「驚異と怪異 想像界の比較研究に向けて」を国立民族学博物館において開催した。「驚異」と「怪異」を対比させるという、新たな比較研究の枠組みを今後の展開として検討している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 48件)

山中 由里子「未知との遭遇 驚異と怪異の比較研究」小松和彦編『怪異・妖怪文化の伝統と創造 ウチとソトの視点から』2015、31-42 頁(査読無)

山中 由里子「<驚異>を媒介する旅人」『怪異を媒介するもの (アジア遊学)』2015、印刷中(査読無)

杉田 英明「ギリシア人画家と中国人画家の腕比べ: アラブ・ペルシア文学の中の佛教説話」『Odysseus』19号、2015、1-29 頁(査読無)

守川 知子監訳、ペルシア語百科全書研究会訳「ムハンマド・ブン・トゥースイー著『被造物の驚異と万物の珍奇』(1-8)」『イスラーム世界研究』2009 2015、2:2、198-218 頁; 3:1、403-441 頁; 3:2、378-391 頁; 4、483-550 頁; 5、365-494 頁; 6、549-570 頁; 7、499-532 頁; 8 印刷中(査読有)
<http://hdl.handle.net/2433/79932>
<http://hdl.handle.net/2433/87443>
<http://hdl.handle.net/2433/123287>
<http://hdl.handle.net/2433/154006>
<http://hdl.handle.net/2433/161180>
<http://hdl.handle.net/2433/173269>
<http://hdl.handle.net/2433/185810>

大沼 由布 “Wonders of the East and Natural History,” *Poetica* 83, 2015, 印刷中(査読有)

大沼 由布「幻想のアマゾン族」東雅夫・下楠昌哉編『幻想と怪奇の英文学』2014、82-108 頁(査読有)

杉田 英明「空飛ぶ馬 東方ユーラシアにおける名馬伝承の起源と展開」『文学』15 巻1号、2014、19-37 頁(査読無)

大沼 由布「二つの韻文版『マンデヴィルの旅行記』における散文版からの変化」『主流』75 巻、2013、25-47 頁(査読有)

見市 雅俊「カエルの雨、天上の音楽、妖精のサークルー-17 世紀イギリスの驚異の世界」『中央評論』284 号、2013、34-48 頁(査読無)

守川 知子「イスラーム社会の驚異(アジアイブ)集成 アジープ、ガリーブの世界」『中央評論』284号、2013、49-58 頁(査読無)

山中 由里子「女人族伝承の東西伝播」『中央評論』284 号、2013、59-73 頁(査読無)

山中 由里子 “The Arabian Nights in Traditional Japanese Performing Arts,” in *Scheherazade's Children: Global Encounters*

with the Arabian Nights, 2013, 274-281(査読無)

杉田 英明「『マホメット喚山』説話の東西伝播」『Odysseus』17 号、2013、1-18 頁(査読無)

大沼 由布 「『マンデヴィルの旅行記』と「装置」としての語り手」『同志社大学英語英文学研究』91 巻、2013、1-18 頁(査読無)

池上 俊一「天使の訪れ」『西洋中世研究』4 巻、2012、28-49 頁(査読有)

大沼 由布 “Through the Eyes of Travelers: Classical and Medieval Views of Exotic Marvels,” *Studies in Medieval English Language and Literature* 27, 2012, 59-78 (査読有)

山中 由里子「涙壺を求めて ヨーロッパの聖書の東洋観とシーア派儀礼」川本皓嗣、上垣外憲一編『比較詩学と文化の翻訳』2012、249-269 頁(査読無)

杉田 英明「知識の泉としての『アラビアンナイト』バートン版と南方熊楠」『南方熊楠とアジア(アジア遊学 144)』2011、154-163 頁(査読無)

杉田 英明「幕末・明治期の『アラビアンナイト』(補遺)」『Odysseus』15 号、2011、1-24 頁(査読無)

山中 由里子 “The Islamized Alexander in Chinese Geographies and Encyclopaedias” in *The Alexander Romance in Persia and the East*, 2012, 263-274 (査読有)

21 見市 雅俊「ジョン・オーブリーとピューリタン革命」『紀要中央大学文学部史学』56 巻、2011、69-96 頁(査読無)

22 見市 雅俊「島国の誕生:カムデンからデフォールヘ」『近代イギリスを読む:文学の語りと歴史の語り』2011、3-70 頁(査読無)

23 杉田 英明「佛教説話「井戸のなかの男」の西方伝播-ペルシア文学の貢献を中心に」『東西支渉とイラン文化(アジア遊学 137)』2011、78-89 頁(査読無)

[学会発表](計 22 件)

山中 由里子 Travelling Narratives and Networks of Knowledge: the Case of the Alexander Romance, 日独学術コロキウム “Knowledge Transfer Across Borders: Integrative Approaches” 2015 年 1 月 16 日、ゲッチンゲン(ドイツ)

大沼 由布 Wonders of the East and Natural History, "Old and Middle English Studies: Texts and Sources" 2014年09月03日、ロンドン(イギリス)

山中 由里子、驚異と怪異 想像界の比較研究、東アジア怪異学会、2014年05月31日、園田学園女子大学(兵庫県・尼崎市)

山中 由里子 Authenticating the Incredible: Comparative Study of Narrative Strategies in Arabic and Persian Ajaib Literature, "Strategies of Preservation and Guardianship of the Authorial Composition in Medieval Arabic and Persian Literature" 2014年3月25日、エルサレム(イスラエル)

山中 由里子 From Alexander to Iskandar: Alexander Traditions in the Islamic World, "Conferencia patrocinada pola Catedra Jean Monnet: A Cultura da Integracion Europea," 2013年4月23日、サンチアゴ・デ・コンポステラ(スペイン)

山中 由里子 Not 'just' fantasy: A Comparative study of mediaeval marvel literature in the Middle East and Europe, "20th Congress of the International Comparative Literature Association," 2013年7月24日、パリ(フランス)

山中 由里子 Ajaib as discourse on cultural relativism? A comparative study of Persian, Arabic, European and Chinese marvel literature, "32. Deutscher Orientalistentag". 2013年9月24日、ミュンスター(ドイツ)

山中 由里子 未知との遭遇 驚異と怪異の比較研究「怪異・妖怪文化の伝統と創造 ウチとソトの視点から」2013年11月26日、国際日本文化研究センター(京都府、桂市)

大沼 由布 Convention Through Innovation: Marvels in *Topographia Hibernica* by Gerald of Wales, "Aspects of the Marvelous in Medieval Literatures" 2012年11月19日-20日、ラクイラ(イタリア)

大沼 由布 Literary Migration of the Amazons through Contact Zones 第9回日独先端科学シンポジウム2012年10月26日-28日、ポツダム(ドイツ)

山中 由里子 Alexandre et les merveilles du monde dans le 'Aja'ib al makhluqat de Tusi, "Mythe, legende et histoire dans la culture iranienne," 2011年11月9日、ストラスブール(フランス)

山中 由里子 The Land of Women in Persian 'aja'ib literature from a comparative perspective, "7th European Conference of Iranian Studies," 2011年9月9日、クラクフ(ポーランド)

山中 由里子 旅する驚異譚-中東とヨーロッパにおける女人国伝説の交錯、中世西洋学会シンポジウム「ヨーロッパとイスラーム:文化の翻訳」、2011年6月26日、京都大学(京都府、京都市)

杉田 英明 近代日本におけるアリババ、「アラビアンナイトのテキスト伝承」2010年12月19日、国立民族学博物館(大阪府、吹田市)

山中 由里子 驚異の比較文学、日本比較文学会関西支部例会、2010年9月18日、大阪学院大学(大阪府、吹田市)

山中 由里子 The Islamized Alexander in Chinese Geographies and Encyclopaedias, "The Alexander Romance in the East" 2010年7月29日、エクセター(イギリス)

[図書](計 10件)

山中 由里子編、名古屋大学出版会、<驚異>の文化史、2015(印刷中)

池上 俊一、筑摩書房、増補 魔女と聖女: 中近世ヨーロッパの光と影、2015、272

黒川 正剛、講談社、魔女狩り 西欧の三つの近代化、2014、272

池上 俊一、名古屋大学出版会、公共善の彼方に 後期中世シエナの社会、2014、602

家島 彦一、山川出版社、イブン・ジュバイルとイブン・バットゥータ イスラーム世界の交通と旅、2013、96

池上 俊一、河出書房新社、中世幻想世界への招待、2012、416

杉田 英明、岩波書店、アラビアンナイトと日本人、2012、928

池上 俊一、河出書房新社、図説 騎士の世界、2012、115

守川 知子・稲葉穰訳注・校訂、京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター、伝ウマル・ハイヤーム著ノウルーズの書、2011、160

池上 俊一、刀水書房、森と川 歴史を潤

す自然の恵み、2010、156

〔産業財産権〕

出願状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/yamanaka/index>

6. 研究組織

(1)研究代表者

山中 由里子 (YAMANAKA, Yuriko)
国立民族学博物館・民族文化研究部：准教授
研究者番号：20251390

(2)研究分担者

池上 俊一 (IKEGAMI, Shunichi)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号：70159606

大沼 由布 (ONUMA, Yu)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：10546667

杉田 英明 (SUGITA, Hideaki)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号：90179143

見市 雅俊 (MIICHI, Masatoshi)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：30027560

守川 知子 (MORIKAWA, Tomoko)
北海道大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00431297

(3)連携研究者

金沢 百枝 (KANAZAWA, Momoe)

東海大学・文学・教授
研究者番号：10548001

亀谷 学 (KAMEYA, Manabu)
北海道大学・文学研究科
研究者番号：00586159

黒川 正剛 (KUROKAWA, Masatake)
太成学院大学・人間学部・教授
研究者番号：30342231

小宮 正安 (KOMIYA, Masayasu)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：80396548

菅瀬 晶子 (SUGASE, Akiko)
国立民族学博物館・研究戦略センター・助教
研究者番号：00444141

鈴木 英明 (SUZUKI, Hideaki)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：80626317

武田 雅哉 (TAKEDA, Masaya)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号：40216908

二宮 文子 (NINOMIYA, Ayako)
青山学院大学・文学部・准教授
研究者番号：40571550

林 則仁 (HAYASHI, Norihito)
龍谷大学・国際文化学部・講師
研究者番号：20738215

松田 隆美 (MATSUDA, Takami)
慶応大学・文学部・教授
研究者番号：50190476

宮下 遼 (MIYASHITA, Ryo)
大阪大学・言語文化研究科・助教
研究者番号：00736069

(4)研究協力者

小倉 智史 (OGURA, Satoshi)
日本学術振興会・特別研究員(PD)

小林 一枝 (KOBAYASHI, Kazue)
早稲田大学・非常勤講師

辻 明日香 (TSUJI, Asuka)
日本学術振興会特別研究員 (PD)

家島 彦一 (YAJIMA, Hikoichi)
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所・名誉教授